

寺子屋とその師匠

史学班 (徳島史学会)

稲飯 幸生^{*1}

1. はじめに

文部省 (現文部科学省) が明治初年の県下の私塾・寺子屋の状況を調査し、明治25年 (1892) に発表した『日本教育史資料』の「徳島県私塾・寺子屋一覧表」(第9冊所収)によると、三野町の場合は5か所の寺子屋がある。土屋徳正 (一平)・細川尉之助 (丈之助)・栗林又市 (亦一) が開いた寺子屋で、読書・算術を教えたとある。この資料では土屋徳正は太刀野山村になっているが、太刀野村の誤りである。このほか習字のみの師匠として平尾定太郎 (芝生村)・大堀房吉 (加茂野村)・鎌田慶蔵 (清水村) の3名が記載されているが、これ以外にも各地域に寺子屋が開かれていたので、その状況について旧村別に調査した。

2. 清水村

・**鎌田 慶蔵** 明治26年 [1893] 没
重清村 (現美馬町) 谷口の人で、自宅で寺子屋を開いていたがそこが焼失し、清水村へ来て福原氏の納屋で教えた。30名ほどの寺子がいた。明治5年 (1872) に郷里の重清村へ帰った (『三野町誌』)。『日本教育史資料』には「学科は習字、開業は文久元年 (1861)」、との記載がある。

・**逸見 清久** 天保3年 [1832] 没

・**逸見 清重** 生没年不詳

・**逸見津賀根** 大正7年 [1918] 10月15日没

3代にわたり清水・加茂野宮の子どもを教えた。逸見家は代々神職で文化7年 (1810)「清水村棟付

人数改御帳」(三野町蔵)にはその出自が記載されている。

・**平尾種太郎** 明治16年 [1883] 没
清水村最後の庄屋で、後に里長・戸長を勤めた。『美馬町史』には「自宅で寺子屋を開き、支那学を教えた」とある。

・**福原 程蔵** 安政4年 [1857] 9月2日没
算盤の名人で算術を教えた (『三野町誌』)。寛政4年 (1792) に大元帥関孝和先生門流の加藤武右衛門より数学教授の免許を受けた文書がのこっている (三野中学校蔵)。弟子に横関一馬 (勢力村)・宮木伊三太 (芝生村) があり、ともに寺子屋師匠として活躍している。

3. 加茂野宮村

・**塩田文五郎** 天保4年 [1833] 8月11日没
瀧寺の境内に弟子が建てた筆子塚があったが、北条博文氏により青蓮寺境内の五輪塔に合祀された。法名は「寿雲院秋岳榮法居士」で「色かへぬ杖をけふより千代の友」という辞世の句がある。

・**北條嘉太郎** 万延元年 [1860] 11月15日没
塩田文五郎の養子で師匠をした。

・**一閑道保居士** 天保6年 [1835] 12月3日没
瀧寺の山門下に墓があり、門弟中・世話人佐兵衛と刻まれた台座がある。一閑道保居士は通称惣兵衛で太刀野・勢力・加茂野宮一帯に約60名の弟子を持っていた (『三好郡誌』)。

・**三好 文蔵** 明治4年 [1871] 6月19日没
惣兵衛の養子で師匠をした。門弟は50人もあった

*1 神山町下分



写真1 真鈴峠

真鈴峠を越えると讃岐国で子ども達は峠を越えて阿波の寺子屋に通っていた

といわれている。墓は瀧寺山門下の養父一閑道の傍らにあり、太刀野山村・勢力村門弟中と刻まれた墓がある。

・藤見 丈道 弘化5年1月12日没

瀧寺の万念山墓地に門弟中と刻まれた墓がある。

・河原 文水 明治15年[1882]10月13日没

『三好郡誌』には「箸蔵寺の住職の河原泰音の実父で、明治14、5年頃漢文を教授した。山川町川田の人で幼少から徳島市大谷村の地藏院東海寺で修行し、後に還俗した。経史・詩文に通じ徳島市寺町の東光寺で私塾を開いた。明治初年に藩士族を中心とした自助社に対抗して平民による阿波立志社をおこし、国会開設の請願に奔走した。」とある。紅葉温泉の東側に砂岩石に朱文字を施した墓がある。

・大堀 房吉 生没年不詳

『日本教育史資料』には「文久3年(1863)開業、明治5年(1872)に廃業、学科は習字、教師は男子一人」とある。寺子は約30人ほどであった。子孫の方々は徳島市に在住されている。

4. 勢力村

・宮田 五蔵 文化13年[1816]12月5日没

先祖は徳島の人で4代前の藤兵衛が貞享3年(1686)に竹奉行として勢力に来て住み着いた。五蔵は不捨翁ふしやおうと称し、剣の達人で、趣味として俳諧・漢詩をよくした(『三野町誌』)。青蓮寺に墓がある。

・宮田佳之助 安政6年[1859]2月23日没

・宮田近吉郎 慶応2年[1866]9月11日没

近吉郎は佳之助の弟で独身で過ごした。

・宮田佳五郎 大正8年[1919]9月1日没

佳之助の養子となり子弟を教えた。上記3名はともに寺子屋の師匠である。寺子は約50名前後といわれている。

・横関 一馬 明治13年[1880]9月8日没

福原程蔵の弟子で現在辺見政夫宅の前に墓がある。左横に「大元帥関孝和先生門流、算師横関一馬清重」とある。台石には「阿讃門弟中建之」とあり、讃岐からも寺子が来ていたのである。

・北條 道榮どうえい(初代) 元治元年[1864]2月18日没

医業を営む傍ら子弟を教えた。青蓮寺に墓がある。戒名は「覚榮禅定門」、台座に門弟中とある。北条家は蜂須賀家の家老稲田氏について脇町に来たが、後に勢力村に移り住んだ。

・北條 道榮(二代目) 大正9年[1920]没

幼名宮内常太郎、初代道榮の甥、初代について医学を学び、後に養子となり二代目道榮を名乗った。

・新川 杏窓にいかわ ちようそう 明治11年[1878]11月23日没

半田町口山くちやまの人、京都に学び帰郷して勢力村に住み、子弟に読書・習字を教えた。脱俗の人といわれ奇行に富んだ人であった(『三野町誌』)。青蓮寺に墓があり、台座に門弟中の刻名がある。

5. 芝生村

・平尾定太郎 大正5年[1916]3月13日没

『日本教育史資料』には「学科は習字、開業は安政6年(1859)、教師は男子1名」となっている。廃業の年は記載がない。「桃居」と称し、詩文を能くした。藩儒新居水竹の門人である。

・宮木伊三太 明治27年[1894]6月23日没

福原程蔵より授けられた算師免許状がある(三野中学校蔵)。この免許状は改名後の伊右衛門になっている。「差分盈胸えいきょう 平方収録」(明治13年・[1880])・「開立設題」(明治17年)などの研究書が残っている。墓は師匠の横関一馬墓の横にあったが後に来迎寺に合祀された。

6. 太刀野村

・土屋 徳正 明治11年[1878]11月15日没

『日本教育史資料』によると「安政4年(1857)に太刀野山村(太刀野村の誤り)に開業、明治5年

(1872)に廃業、師匠は男1人、学科は読書・算術、寺子は男が25名、身分は神官」とある。土屋正美氏宅の裏に門弟中の刻銘の墓がある。

・坂川治喜右衛門 生没年不詳

享保6年(1721)太刀野村棟付人数改御帳には、浪人と記載され、針医者・手習師匠で渡世したとある。

7. 太刀野山村

・細川耐之助(丈之助) 生没年不詳

『日本教育史資料』には「元治元年(1864)に太刀野山村に開業、明治9年に廃業、学科は読書・算術、師匠は男一人で、寺子は男40名、女3名、身分は士」とある。住所・没年不詳。

・栗林 亦一 大正2年[1813]没

『日本教育史資料』には「天保9年(1838)に太刀野山村で開業、学科は読書・算術、明治5年(1872)に廃業。教師は亦一1人で、男子27人を教えた」とある。寺子屋に使用した家が珍しく現在も残っている(写真2)。2間半に4間半の片入母屋造りの2階建であり、階上を寺子屋に使用した。階上の1間は師匠専用であったという。



写真2 寺子屋屋敷(栗林亦一宅)

現存する寺子屋に使用した家である。

・嵯峨原弥市良 明治19年[1886]10月9日没
香川県との境の真鈴峠に近い場所に寺子屋を開いた。漢学を教えたと『三野町誌』に記載されている。墓碑に阿州・讃州門人とあるので、峠を越えて讃岐からも寺子がきていた。

・藤田 本蔵 明治21年[1888]旧11月18日没
・藤田勝三郎 昭和7年[1932]旧9月23日没
本蔵・勝三郎はともに獣医で、その傍ら読書およ

び武術を教えた(『三野町誌』)。本蔵の妻は穴吹町の佐藤家の出身で武術の名人であった。

・藤井 品蔵 天保10年[1839]5月27日生
東山村(現三好町)の出身である。自宅は藤黒^{ふじくろ}にあり、そこから通って藤田氏宅の傍らの寺子屋で漢学を教えた。通称「シナ」先生と呼ばれ、寺子に慕われた。没年不詳である(『三野町誌』)

・林 為吉 明治31年[1956]7月16日没
自宅の納屋で寺子屋を開き、太刀野山・太刀野の青年を教えていた(『三野町誌』)

・大喜多章達 生没年不詳
自宅で子どもを教えた。寺子は20名前後であった。墓所は不明である。

・梶川 常玄 昭和2年[1927]11月12日没
福井県生まれの僧侶である。福井地震のため寺が埋没したので、父とともに来寺した。字引地の太刀野山説教所(仏教信者の集会所)横で手習を教えた。

8. むすび

三野町の寺子屋の師匠の墓の台石には「阿讃門弟中」(横関一馬墓)、および「阿州・讃州門弟中」(嵯峨原弥市良墓)と刻まれたものがある。いずれも讃岐との国境に近い地域の師匠の墓である。藩政時代に他国へ入ることは禁制であったが、子ども達は峠を越えて隣国の師匠について学んでいたであろう。

最後にこの寺子屋師匠の調査について、元芝生小学校長の北条博文氏に格別のご協力をいただいた。綿密な資料の提供・現地案内までされたことについて厚く感謝申し上げます。

資料提供

北条博文(三野町加茂野宮)

文献

- 三野町誌編集委員会(1974):『三野町誌』。
- 三好郡役所(1924):『三好郡志』(1972復刻)。
- 吉岡浅一(1980):『三好郡歴史散歩』。
- 山城町役場(1960):『山城谷村史』。
- 文部省蔵版(1892):『日本教育史資料』。
- 美馬町史編集委員会(1989):『美馬町史』。